

夏に流行する感染症

感染対策情報 令和8年7月

手足口病

【病原体】

エンテロウイルス、コクサッキーウイルス

【症状】

口の中や手足などに水疱性の発疹が出る感染症。4歳位までの幼児を中心とし、2歳以下が半数を占める。

【感染経路】

飛沫感染、接触感染、糞口感染

【法的取り扱い】

感染症法：5類定点把握疾患(小児)

→週単位でまとめ翌月曜に届出

学校保健安全法：第三種

→医師が感染のおそれがないと認めるまで出席停止

ヘルパンギーナ

【病原体】

コクサッキーウイルス

【症状】

発熱、咽頭痛、口腔内の水疱を特徴とする夏かぜの一種。患者の90%以上が5歳以下で、1歳代が最も多い。

【感染経路】

飛沫感染、接触感染、糞口感染

【法的取り扱い】

感染症法：5類定点把握疾患(小児)

→週単位でまとめ翌月曜に届出

学校保健安全法：第三種

→医師が感染のおそれがないと認めるまで出席停止



咽頭結膜熱(プール熱)

【病原体】

アデノウイルス

【症状】

発熱、頭痛、全身倦怠感とともに、咽頭痛、結膜充血などを主症状とする。5歳以下の小児で多く報告されている。

【感染経路】

飛沫感染、接触感染

【法的取り扱い】

感染症法：5類定点把握疾患(小児)

→週単位でまとめ翌月曜に届出

学校保健安全法：第二種

→主要症状が消退した後2日を経過するまで出席停止



流行性角結膜炎(EKC)

【病原体】

アデノウイルス

【症状】

瞼の浮腫や流涙などの症状を呈する。発症は5歳以下の小児に多くみられるが、成人を含む幅広い年齢層から報告がある。

【感染経路】

接触感染

【法的取り扱い】

感染症法：5類定点把握疾患(眼科)

→週単位でまとめ翌月曜に届出

学校保健安全法：第三種

→医師が感染のおそれがないと認めるまで出席停止

感染対策



【手洗い】

上記疾患のウイルスはアルコールに抵抗性があり、対応後はしっかりと手洗いを行うことが重要です。



【個人防護具】

接触や飛沫対策の防護具を着用し、使用した防護具は他の患者さんや環境に触れる前に取り外すことが重要です。

上記の他、近年RSウイルス感染症も流行開始時期が早まっている傾向にあり注意が必要です。また夏季は食中毒も多く、食中毒疑い発生時にも最寄りの保健所への報告が必要となります。